

—航空部—



- 体育会名:関西学院大学体育会航空部
- 創部年:1930年(昭和5年)
- 2025年度会員数:18人(4年1人、3年3人、2年2人、1年12人)

- 同窓倶楽部名:関西学院大学体育会航空部新月会
* 関西学院同窓会 公認団体

- 同窓倶楽部通称:新月会
 - 設立年:1957年(昭和32年)
 - 会員数:336人(男性289人、女性47人)
- * 物故者含む

ライト兄弟の初飛行(1903年)から四半世紀を経た1930(昭和5)年、欧米大学における航空スポーツの高まりに呼応するように、大空への若人の憧憬として、関学卒の大阪朝日新聞記者・新宮寿天丸の呼びかけで、関学と京都帝大とで関西学生航空連盟が結成された。後に航空部となる関学航空研究会の発足である。

その後、参加大学も増え32年、連盟は関東の大学と合体し、日本学生航空連盟関西支部となった。関学の活躍は華々しく、関西学生初の単独飛行者兼操縦士となった名倉三郎を筆頭に、飛行免状取得者が誕生していった。

競技面では34年から全日本学生選手権が開催され、第2回大会においては6種目中5種目に出場、4種目に優勝し、1種目に入賞した。また、衣笠武男、辻賢造、金子良夫、森重猛夫らは2年連続優勝や2種目優勝をするなどの活躍を見せた。

戦争による空白ののち、52年にグライダーのみによる日本学生航空連盟が再発足し、関学も航空部として活動を再開した。関西では、復活後初めて飛行機曳航による飛行に成功した3人のうち2人(安田晃次、亘理一省)が本学生であった。

また関西での複座機による教官同乗操縦訓練を最初に行ったのも関学である。関学は関西学連発足から現日本学連まで続く唯一の加盟校であり、その間に数多くの各航空会社パイロットや航空大学校教官を輩出している。

現在、飛行訓練は合宿形式で、主に大野・木曾川滑空場(ウインチ曳航)と福井空港(航空機曳航)で行う。競技は全日本選手権、東海関西選手権、全日本新人選手権、久住山岳飛翔大会や関関戦、関関同立戦の対抗戦が毎年行われている。

主な競技内容は、定められた3地点の周回飛行時間を競う個人競技と参加選手の合計点で競う団体競技がある。選手には操縦技量のみならず、気象、航空力学、機体整備、無線工学、航法、航空法などに関する広範な知識ならびに俊敏な判断力が常に求められる。航空部は現在、単座グライダー1機を所有し、互いの信頼と協力とで常なる全国大会入賞を目指し活動している。